



館林城の
再建をめざす会

“よみがえる館林城下町”

次号予告

次号(8号)の特集

目車町(めぐるま)・木挽町(こびき)

2022年10月発行予定

榊原康政移封(1590)以前からの古道が城下町に取り込まれ、目車町と木挽町になった。館林城下町の西端にあたる。目車町の起点である小泉口は中仙道へ通じる交通の要所。目車町は商人町、木挽町は職人町として発展した。

編集後記

今号は城下町の東南角地、風光明媚、日当たり良好、町人町と侍町の接点・・・等々。魅力に富んだエリアであり城下町の面影が今でも残る町である。市では歴史の小径として観光に役立てようとしている。昭和30年代の賑わいを知る私としては、城下町の景観が悲しいほど失われているのが現状だ。何とかしないと…。城下町の景観を取り戻す活動として美容室ウェイヴ(鍛冶町)の外観を修景した。ぜひご覧下さい。 令和4年5月 館林城の再建をめざす会・会長 田中茂雄

※前回100円でお買い上げの皆さまへ感謝。寄附もいただきお礼申し上げます! 本誌印刷費に充当しました。今回もよろしくお願ひします。 [お礼]よこつか花店、みくに書房さま、配布協力ありがとうございました。真中病院さまご寄付ありがとうございました。

[定価:100円]

バックナンバーのご案内(年2回・春・秋発行)

創刊号	2019年2月	塚場町 特集
2号	2019年10月	日光脇往還 特集
3号	2020年4月	鷹匠町 特集
4号	2020年10月	大名小路・裏宿 特集
5号	2021年5月	紺屋町・谷越町 特集
6号	2021年10月	豎町・材木町 特集

バックナンバーは
Webで公開しています。



「館林城下町だより」

～7号～

特集 肴町・鍛冶町・金山
大工町・片町(南側)

編集: 館林城の再建をめざす会

発行日: 2022年5月30日

発行者: 田中茂雄

発行: 昇文館

(昇文館:祖父が神田表鏡楽町にて明治44年創業)
〒374-0037 館林市小桑原町855-1 優風館



Letter from Tatebayashi CastleTown

館林城下町だより

2022年5月7号

さかなちょう かじちょう かなやま
特集:肴町・鍛冶町・金山
だいくちょう かたまち
大工町・片町(南側)



「二業見番」
肴町のシンボル!
名称は館林二業見番組合事務所。
昭和13年に建設される。
二業とは料理業と芸妓業の二業。
2階の舞台が見事。
見番として使われたのはわずか6年!

肴町・鍛冶町・金山

大工町・片町 (南半分)

城下町の職人町としての肴町・鍛冶町・大工町。
城内と面した商人町の片町。
城下町内にありながら侍町だった金山。

[肴町とは]

花街のイメージがあるが本来は魚商の居住する商人町。
料理屋が発展し花街として賑わいのある町になったのは昭和から。
それまでは青梅神社周辺が花街である。
ともに表の日光脇往還から一本隔たった裏道(横町)である。

[鍛冶町とは] (※全国81の城下町で鍛冶町があるのは47町)

鍛冶職が居住した町。網吉時代(延宝9年)11名の職人が
集まっていた。城下町なので刀鍛冶も活躍したに違いない。
鍛冶職の守り神である金山神社・金山毘古命(かなやまひこのかみ)もある。

[大工町とは] (※全国81の城下町で大工町は31町ある)

榊原康政が城下町を築いた頃から大工職の需要が旺盛だった。
網吉時代になっても同町19戸の内、17戸が大工職だ。
まさに大工町。

[金山とは]

鍛冶職が祀った金山神社の南東周辺は与力または同心の
組屋敷が建ち並ぶ侍町だった。町役人の支配外エリア。
金山の町名は江戸時代にはなく、明治期からの地名。

[江戸時代:肴町/鍛冶町/大工町の戸数]

網吉時代(延宝2年1674年)
肴町36戸 鍛冶町25戸 大工町19戸

幕末(嘉永元年1848年)
肴町24戸 鍛冶町28戸 大工町18戸

※肴町のみ3割以上も戸数が減っている。

[片町とは]

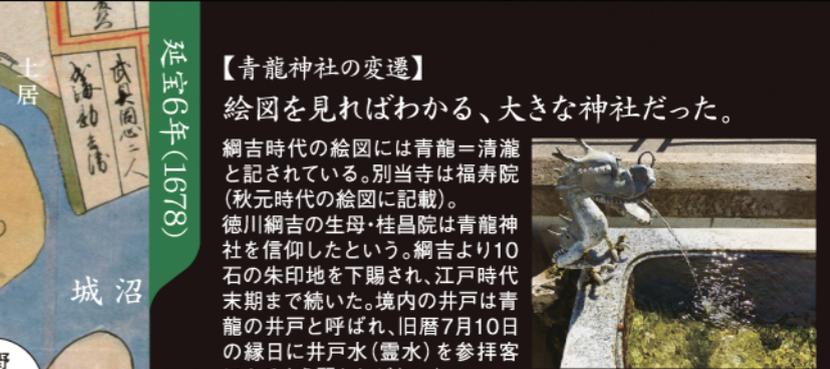
右の絵図を見ればわかる。
道の片側(西側)だけの町なので片町。
道の東側は明地と堀。
土居(石垣)と土塀で城内を守っていた。



[網吉時代と幕末(秋元時代)の絵図を比較]

城下町の東南角部屋!
見晴らし・日当たり良好!!
駅(江戸口)近エリア!?

城下町は舌状台地を利用して整備された。
町の南端は城沼・鶴生田川の低湿地帯だ。
高台だった城下町から南をのぞむと松原(台地)の桃園がひろがっていた。
金山は風光明媚な地であると、種痘医・長澤理玄の伝記に記されている。



延宝6年(1678)

幕末(1865頃)

[青龍神社の変遷]

絵図を見ればわかる、大きな神社だった。

網吉時代の絵図には青龍=清瀧と記されている。別当寺は福寿院(秋元時代の絵図に記載)。徳川綱吉の生母・桂昌院は青龍神社を信仰したという。綱吉より10石の朱印地を下賜され、江戸時代末期まで続いた。境内の井戸は青龍の井戸と呼ばれ、旧暦7月10日の縁日に井戸水(霊水)を参拝客にふるまう習わしがあった。



●ココに藩医・長澤理玄は入院施設のある病院を建てた。金山の地は景色の良い土地であった。

職人町と侍町が共存する町の変遷を絵図で見る。

徳川四天王・榊原康政は文禄4年(1595)周囲を堀と土居で囲った惣構え(そうがまえ)の館林城(城内/城下)を完成させた！
今号の特集は城下町の特徴が色濃く残る町をご紹介します。
それは町屋と武家地が共存していたエリアだ。
町人町は限られた敷地に町家が密集して建ち並び、侍町は広い敷地に長屋形式(与力や同心の屋敷)の家が並ぶ。
絵図をみればよく理解できるはず。

館林城下町(明治18年)



江戸口は城門なので形状が枡形。道路が直進してない。明治20年、直線の道路に改修。

金山は武家地(同心・与力等の住居)なので敷地が広い。広い敷地に長屋形式の建物が侍町(同心・与力)の特徴。維新で失業した武士の多くは館林を離れた。

館林城下町(昭和22年)



魚恵本店の建物

この場所に道が無い。観光道路が完成するのは昭和32年。

城沼耕地整理事業(大正15~昭和2)で造られた道路(3号道路)。左の細い道が江戸時代・城下町の道だ。

迅速測図(明治18)と米軍空撮(昭和22)で記録され、現在まで続く建物は肴町の魚恵本店。貴重な。

魚恵本店(うおえ)

[寿司] 肴町(本町二丁目)

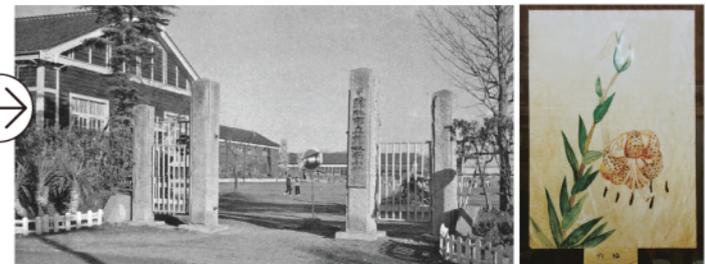
建物の築年是不明だが明治初期。初めは医者の家として建てられた。その後、萩原さんの先々が仕出し料理と館の店として改装し営業。営業当初は寿司カウンターはなくて畳部屋で座って寿司をにぎっていたという。先代の店主・恵三郎氏は館林の景色を写真に記録した写真家としても有名。いまでも多くの写真が町の歴史を語る資料として活用されている。

[館林に館店が多い理由]

明治40年、東武線の開通により新鮮なネタが入手できたから。「始発電車に乗り築地へ、鮮魚を仕入れ昼前に館林にもどれた。美味しい館を昼から提供できた」館店が増えた理由のひとつ。(魚恵ご主人に伺った話)



懐かしの南小学校(昭和4年館林南尋常小として開校。現・二小)この空撮(左)の2年前に正田美智子さまが疎開されていた。



左の建物は講堂。戦時中、この中で戦闘機の組み立てをとおこなっていたという！(写真は昭和39年卒業アルバムより)



校長室に展示されている美智子さまの作品(「六梅」は6年梅組のこと)

城下町の商家の趣を今に伝える建築。

和泉屋(外池商店)

[醸造] 鍛冶町(本町二丁目)

江戸時代中期創業の造り酒屋(屋号「和泉屋」)で酒・味噌・醤油の醸造業を営んでいた。ルーツは近江商人。江戸時代の蔵や昭和4年に建てられた店舗が今も残る。



「和泉屋 菜より」

福祿ブランドの醤油

品質本位

元祖醸造味油等上級

店商屋泉和

番七三二一話電



[肴町・特別企画]
よみがえる昭和30年代の肴町!
～撮影:萩原恵三郎氏の貴重なスライドの世界～

昭和の館林を撮影し、郷土史に多数の写真を提供している故・萩原恵三郎(えさぶろう)氏。そのご子息である魚恵鮎ご主人の協力で肴町商店街の貴重なスライドをお借りできた。半世紀前のカラーフィルムは退色・変色が進んでいたが、画像処理を施し当時の色彩を再現してみた。昭和の懐かしい風景が甦ってきた。



商店街の集まりで楽しめたスライド「肴町の商店」は全24枚。トップは手描き画面。肴町なので魚が描かれている。



清龍神社の石垣↓



上) 清龍神社から北側の商店街。店名不明だが自慢焼一個5円。水、中華そば、のれんに「味の店」(菊田さん)。右隣は自転車預り所(栗田さん)。隣は矢島さん。

下) 肴町北端から南方向の写真。昭和30年前半の肴町通りがよくわかる。手前に写る子供は私と同世代。南小学校の生徒かも…。道路は未舗装だ。

① 和泉屋商店



② 中野肉店



③ マルケイ化粧品店



④ 程原洋洗所



⑤ 松月食堂



⑥ 小料理きかく



⑦ 田中歯科



⑧ 東美園

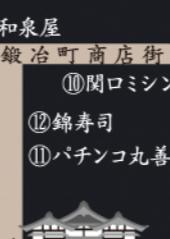


店舗の変遷
カフェ・ライオン
東美園
ダンスホール
商人宿

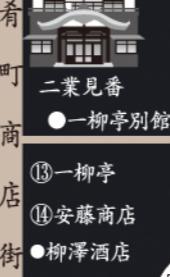
⑨ エデン食堂



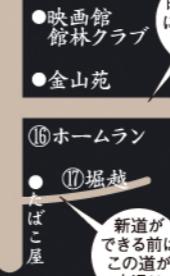
⑩ 和泉屋



⑪ 関ロミシン



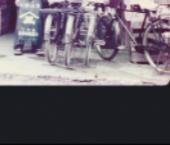
⑫ 錦寿司



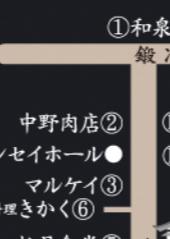
⑬ 一柳亭



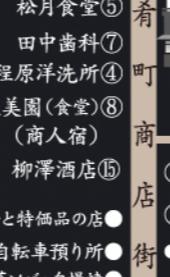
⑭ 安藤商店



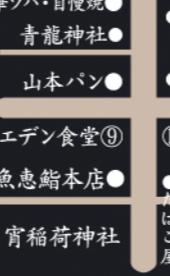
⑮ 中野肉店



⑯ シンセイホール



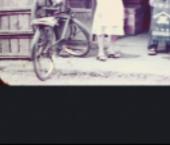
⑰ マルケイ



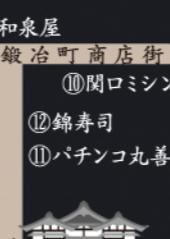
⑱ 小料理きかく



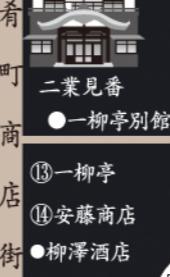
⑳ 松月食堂



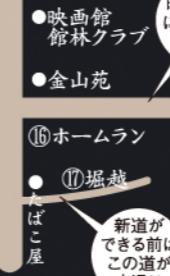
㉑ 和泉屋



㉒ 関ロミシン



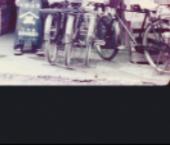
㉓ 錦寿司



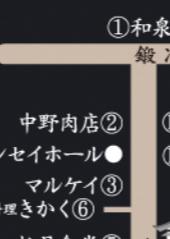
㉔ 一柳亭



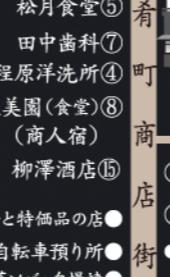
㉕ 安藤商店



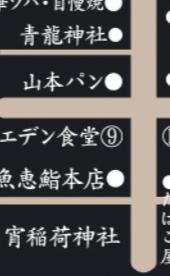
㉖ 中野肉店



㉗ シンセイホール



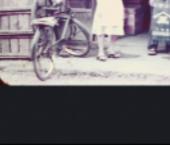
㉘ マルケイ



㉙ 小料理きかく



㉚ 松月食堂



㉛ 和泉屋



㉜ 関ロミシン



㉝ 錦寿司



㉞ 一柳亭



㉟ 安藤商店



㊱ 中野肉店



㊲ シンセイホール



㊳ マルケイ



㊴ 小料理きかく



㊵ 松月食堂



㊶ 和泉屋



㊷ 関ロミシン



㊸ 錦寿司



㊹ 一柳亭



㊺ 安藤商店



㊻ 中野肉店



㊼ シンセイホール



㊽ マルケイ



㊾ 小料理きかく



㊿ 松月食堂



㊱ 和泉屋



㊲ 関ロミシン



㊳ 錦寿司



㊴ 一柳亭



㊵ 安藤商店



㊶ 中野肉店



㊷ シンセイホール



㊸ マルケイ



㊹ 小料理きかく



㊺ 松月食堂



㊻ 和泉屋



㊼ 関ロミシン



㊽ 錦寿司



㊾ 一柳亭



㊿ 安藤商店



㊱ 中野肉店



㊲ シンセイホール



㊳ マルケイ



㊴ 小料理きかく



㊵ 松月食堂



㊶ 和泉屋



㊷ 関ロミシン



㊸ 錦寿司



㊹ 一柳亭



㊺ 安藤商店



㊻ 中野肉店



㊼ シンセイホール



㊽ マルケイ



㊾ 小料理きかく



㊿ 松月食堂



㊱ 和泉屋



㊲ 関ロミシン



㊳ 錦寿司



㊴ 一柳亭



㊵ 安藤商店



㊶ 中野肉店



㊷ シンセイホール



㊸ マルケイ



㊹ 小料理きかく



㊺ 松月食堂



㊱ 和泉屋



㊲ 関ロミシン



㊳ 錦寿司



㊴ 一柳亭



㊵ 安藤商店



㊶ 中野肉店



㊷ シンセイホール



㊸ マルケイ



㊹ 小料理きかく



㊺ 松月食堂



㊱ 和泉屋



㊲ 関ロミシン



㊳ 錦寿司



㊴ 一柳亭



㊵ 安藤商店



㊶ 中野肉店



㊷ シンセイホール



㊸ マルケイ



㊹ 小料理きかく



㊺ 松月食堂



㊱ 和泉屋



㊲ 関ロミシン



㊳ 錦寿司



㊴ 一柳亭



㊵ 安藤商店



㊶ 中野肉店



㊷ シンセイホール



㊸ マルケイ



㊹ 小料理きかく



㊺ 松月食堂



㊱ 和泉屋



㊲ 関ロミシン



㊳ 錦寿司



㊴ 一柳亭



㊵ 安藤商店



㊶ 中野肉店



㊷ シンセイホール



㊸ マルケイ



㊹ 小料理きかく



㊺ 松月食堂

お散歩マップ
肴町・鍛冶町・金山

大工町・片町
Daikucyo Karamachi
(南半分)

通り(東西)は、北から連雀町通り、鍛冶町通り、観光道路(新道)、そして江戸時代の土居側道。通り(南北)は、西から大通りの日光脇往還、肴町通り、大工町通り、城下と城を分けた片町通り。大正時代以降このエリアは発展をとげることになる。昭和30年代がこのエリアの全盛期といえるだろう。多くの商店・料理屋が軒を並べ、映画館があり、遊戯施設あり、城下町の盛り場として機能していた。肴町通りの中央に二業見番がそびえ、料亭も連なり花街の賑わいがあった。肴町=大人の町だった。鍛冶町はより生活に密着した店舗が多かった。大工町通りは店舗が少なく住居が多い町。

片町は映画館(館林キネマ)があり、道も広く開放感のある町だった。最初にスーパーマーケット(とりせん)ができたのも片町。この地区は南小学区なので多くの同級生が暮らす町でもあった。懐かしい。

町屋建築マーク (2022年5月・田中調査) 昭和初期に建てられた伝統工法木造建築



[スーパー] 富岡八百屋 ■本町二丁目17-36
[ラーメン] 民ちゃん ■本町二丁目17-32
[建築] 金沢工務店 ■大手町7-3
[美容室] ウェイヴ ■本町二丁目16-22
[酒処] 美鈴 ■大手町2-8
[串処] BO-ZU ■本町二丁目16-12
[寿司] 魚恵本店 ■本町二丁目12-10
[酒屋] 奥村酒店 ■本町二丁目12-6

肴町 二業見番の不思議な歴史?
 正面の唐破風 千鳥破風の意匠! 桃山風の華麗な外観は館林の宝である
 花街の見番→日清製粉→館林カトリック教会→館林商工会議所→地区公民館…
 ※現在、活用されているとはいえない状況。もったいない!!
 美智子さまが疎開時に遊ばれた舞台
 肴町の発展に伴い昭和13年、木造近代和風建築として豪華な見番を新築した。以前の見番(大正7年築)は青梅神社側にあった。戦時下の昭和19年に日清製粉(本社機能の疎開先)の所有となる。戦後、カトリック教会として貸し出された。昭和31年、館林市に寄贈された。



金山 長澤理玄(1815~63年) 顕彰碑
 [歴史・発見!] コロナ禍の今こそ長澤理玄の業績を再確認しよう
 館林と藩の飛地・山形で種痘(天然痘ワクチンの予防接種)の普及に尽力し約9千人以上の命を守った藩医・長澤理玄。偉人の生誕200年を記念した顕彰碑が金山の地に建っている。2015年、長澤理玄顕彰会が邑楽館林医師会等の協力を得て建立した。
 理玄の功績後世に 市有有志が顕彰碑
 顕彰碑除幕式 2015年10月4日(日)
 ※山形市には理玄の種痘碑が市内の薬師公園に建っている。ようやく館林も追いついた。(田中)
 2015年10月5日上毛新聞記事より

山本パン店を覚えていますか？ 同級生のパン屋(昭和31年開店)さんをご紹介します。

南小・二中の同級生・山本さんの家は肴町で人気のパン屋。山本さんとお姉さんに店の歴史を伺い、貴重な写真をお借りした。

売出しのここだ。ケーキは飛ぶように売れたという。両親と姉妹四人が店を手伝い支えていた。懐かしい昭和の個人商店だった。(田中)

写真は昭和31年、新築開店時の記念写真。中央が店主の山本さんで、パン修行は著名な新宿・中村屋。さらに上野の店でも修行したという。山本パンは中村屋が味のルーツだった。館林で最初のクリスマスケーキを



↑開店を盛り上げるチンドン屋(佐野の業者)さんと記念撮影。

【肴町の歴史】図書館の曳き家

山本パン店開店の前年、隣接する図書館を南小の校庭へ移設。町の話となる。



※建物は初代・館林警察署(明治11年)。後に秋元文庫を取めた館林図書館となった。撮影:肴町・魚恵館の萩原恵三郎氏



写真は谷越町から肴町方向。肴町の落ち着いた通りが見える



肴町の映画館「館林クラブ」 花街・肴町の娯楽を支えた映画館

日本映画全盛時代の昭和30年代。館林の映画館は4館あった。肴町の館林クラブ(帝国館)、片町の館林キネマ(電気館)。そして鷹匠町の大映

劇場(富貴座)と隣接していた洋画の清流だ。映画館が消えて久しい館林だが、かつてはアミューズメントタウンでもあった。



館林クラブ

今から100年前、大正11年(1922)に建てられた。劇場名は「帝国館」で経営者は大津喜一郎。後に「館林クラブ」と改称された。昭和13年、経営は館林映画興行株式会社に移りその直営館となった。昭和30年代は東映の時代劇を主に上映していた。

城下町のインフラ整備をになう 職人町=大工町・鍛冶町

館林城下町は天正18年、榊原康政の城造りから始まる。普請工事を担うのは職人だ。その代表が大工。彼らの住居地が大工町であり、関連業種の鍛冶町が隣に連なる。材木町と木挽町が隣接するのも同じ理由。商人町は目抜き通りだが職人町は大通りに面する必要もないので裏通りだ。

城下町内 職人数

大工16人 鍛冶12人 紺屋 9人
左官 8人 畳・桶・指物 7人
板屋根師・籠屋 4人 研師・塗師 3人
※大工と鍛冶職人が多いのがわかる
井上家→秋元家への引継書「町方引渡帳」より



片町の映画館「館林キネマ」 常設映画館として館林初!

大正7年、館林初の常設映画館である電気館がオープン。当時の映画は弁士が説明する無声映画で、いわゆる活動写真だ。後に館林キネマと改

称した歴史ある映画館。なんと2階客席は椅子でなく、ゴザが敷いてある拵席タイプだった。昭和30年代は松竹映画を上映していた。(田中)



電気館

大正7年(1918)に開館。経営者は伊勢崎の赤石武一郎。外観は大正モダンを感じさせる偽洋館スタイル、雰囲気のあるお洒落な建築だった。写真は絵はがき「館林町電気館」中村書店発行より



館林キネマ

電気館から館林キネマと改称。こどもの頃、2階の拵席から映画「青い山脈(日活1963年版)」を観た記憶がある。

【写真の時代背景を探る】入口の柱に上映ポスターが貼ってある。拡大すると、「広島仁義(東映・松方弘樹主演)」と読めた。制作年は昭和51年(1976)。写真の撮影年が特定できた。(市史別冊「写真で見る館林」より。撮影中山健一氏)

長澤理玄のホームグラウンドは金山。 病院(入院設備がある病院!)は金山の地に。

万延元年(1860)理玄は種痘の功績により藩主から金山の地を譲渡され念願の病院を建てる。外科と天然痘の予防接種を行うための施設だ。画期的なのは入院できる病室があったこと。江戸時代では稀な設備で、民間では順天堂病院のルーツである佐倉藩の佐倉順天堂が有名だ。

館林の先進医療に大きく貢献した理玄。現在、館林が抱える医師不足問題をどう思うだろうか。(田中)



理玄は朱鞘の刀をさして往診した
性格は天真爛漫!

長澤理玄・年表

文化12年(1815)	3月12日山形城下横町口生まれ(父・藩医長澤周玄)
弘化3年(1846)	藩主の国替えにより館林へ(32歳)
嘉永2年(1849)	種痘接種法を学ぶため江戸へ(35歳)
嘉永4年(1851)	種痘接種法を館林へ持ち帰る(37歳)
嘉永4年(1851)	館林で最初の種痘を実施(上州初の快挙)
嘉永5年(1852)	春、山形へ。漆山で種痘を広める。
嘉永5年(1852)	10月、館林へもどり、藩主の協力で本格的に種痘接種を開始
安政4年(1857)	6月、藩校「造士書院」の医学頭取に就任。(43歳)
万延元年(1860)	藩主より金山に7反の土地を譲渡。自費で病院を建設。(46歳)
文久元年(1861)	病院は1~2棟の長屋形式。(下図)運営が軌道になる。
文久3年(1863)	1月、脳溢血により死去。(49歳)お墓は館林市朝日町・円教寺



↑長澤病院 作図:橋本勇治(建築家)

鍛冶町にあったJAZZの名店『オリーブカンパニー』。 1979年4月オープン。東京・吉祥寺のJAZZ&カフェ文化がそのまま移植された店だ。

同級生・小松原くんの夢が詰まったJAZZの店『オリーブカンパニー』。1970・80年代の吉祥寺カルチャー全盛時に活躍した吉祥寺の若大将こと野口伊織氏のもとで修行した小松原くんのお店だ。吉祥寺文化そのものを館林に持ち込み、館林の若者のハートをわしづかみにした店(愛称・オリカン)となったが、今は無い。今も通用する店舗設計は福井英晴氏の作品。素晴らしい！(田中)



オーナーの小松原君(オープン当時)。



福井氏設計、吉祥寺の名店「サムタイム」(1975年)の店長を務めた小松原くん。野口伊織氏の直弟子だ。



ロゴマークがプリントされたお洒落なマッチ→



トーネット様式の曲木椅子とテーブル。本物のレンガを積んだ壁面。高級オーディオとピアノ。居心地の良い店舗設計は福井氏の真骨頂。

オリーブカンパニーから美容室ウェイヴへ。町屋は進化する！ 城下町を再生する活動の最新事例を(今年1月完成)ご紹介。ご覧下さい。

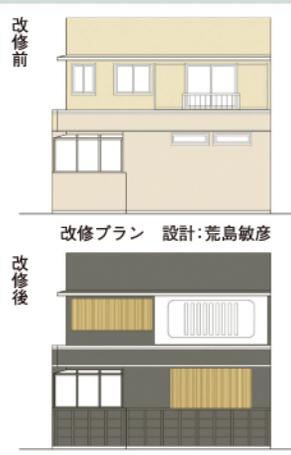
館林が誇れる城下町の歴史と景観を取り戻すため。できることから始めている。2018年、毛塚邸(塚場町)保存活動。2022年、美容室ウェイヴ(鍛冶町)修景活動です。そのノウハウを活かして城下町の再生をめざします。(田中)



2018年
毛塚邸



歴史の街並み景観創出補助制度が活用されました。



改修前

改修プラン 設計:荒島敏彦

改修後

美しい
城下町で暮らしたい！
*
夢を形にして
ご提案

城下町再生研究所



城下町再生をお手伝い(旧・町屋再生研究所)

城下町再生研究所

市が進める「歴史の小径」に面した補助金事業(*)について実績あり。利用方法をご相談ください。
相談窓口:美容室ウェイヴ(小松原) ※歴史的街並み景観創出補助制度

2022年
活動開始

共同代表

荒島敏彦(建築士)
小松原満(美容室経営)
田中茂雄(デザイナー)

レポート① 城下町に残された文化遺産を活用し町の魅力をアップします！

企画：館林城の再建をめぐり

ミニタウン誌『館林城下町だより』6号

2021年11月1日発行（16頁、1200部制作）

館林城下町の中心は大辻。約200年前（松平時代）に消防施設である火の見櫓「箱火の見」が大辻に建てられた。特別提案として「箱火の見」再建と町屋再生を城下町復活のシンボルにするプロジェクト「城下町ひろば」構想を提案した。中心市街地活性化案です。ぜひお読みください。（田中）

特集：堅町（たつまち）・材木町



館林城下町だより



※在庫あり。080-4406-1600田中まで

バックナンバーサイトを作りました
創刊号からのバックナンバーが読める



レポート② 「城下町ひろば」構想、説明会を開催！

10月30日（土）15時～ 会場：谷越会館（青梅神社境内）

10月30日（土）15時～ 会場：谷越会館（青梅神社境内）

地元商店主、住民、区長、市議等約20名が集まった。わかりやすく伝えるためプロジェクターを用意。大きなスクリーンと画像で構想を提案した。ひろば構想のお手本となった四国・三好市地域交流施設の事例や先行している桐生市の「重伝建」事業も詳しく紹介。また、これまでの町屋再生プロジェクト（塚場町・毛塚邸の曳き家保存）や消失した町屋建築（魚惣本店、小室商店、歴史的看板建築等）の記録も紹介できた。

新聞記事（深山記者）をご紹介します。2021年11月22日発行 上毛新聞



館林市の中心市街地に地域交流施設を設け、櫓「箱火の見」を再建する基本構想について、市民グループ邑楽館林歴史活用研究会（田中茂雄会長）は、同市本町の谷越会館で説明会を開いた。同会がまとめた城下町再生プランに市民や地元商店街の店主ら約20人が熱心に耳を傾けた。田中会長は、道路拡幅工事が進む市中心部の奥道前橋館林線（中央通り線）周辺での城下町再生計画について、過去の写真や資料を使って分かりやすく解説した。意見交換会で、地元商店街の男性は「行政は『建物を保存してほしい』『道路拡幅に協力してほしい』と、担当部署ごとに言い分が違ふ。道しるべを示してほしい」と悩みを打ち明けた。中央通り線沿いのマンションに住む男性は「更地が広がりが絶望していたが、城下町の面影を残そうと活動する研究会の取り組みを知って希望の光が見えたようだ」と話していた。（御山まゆみ）

レポート③ 中心市街地再生の動きが新聞記事に。

12月20日（月）上毛新聞1面で大きく紹介されました。

12月20日（月）上毛新聞1面で大きく紹介されました。

日光臨往還道路拡張計画により長年親しまれた多くの商店が撤去され空き地が広がり、町の景観が変わってしまった。この状況下、館林が誇る歴史を活かした町の再生活動が市民から生まれている。記事は中心街の変化と再生活動を丁寧に取材し、まとめている。



館林のこどもを鍛える！

優風館

空手道場

館長：田中茂雄
小桑原町855-1

新学期になり空手を始める子供たちが増えてます。会員は館林だけでなく、足利、千代田、明和、板倉からも。武道の精神で元気な子どもが育っています！

生徒募集 体験は無料。稽古開始前に直接道場へ。まずは体験から 詳しくは優風館サイトで。